## 目 次

第1章	最小二	乗法	1		
1.1	データ	の表現	1		
	1.1.1	直線の当てはめ	1		
	1.1.2	多項式の当てはめ	8		
	1.1.3	一般の関数による近似	13		
	1.1.4	選点直交関数系	16		
1.2	関数の表現				
	1.2.1	関数の最小二乗近似	17		
	1.2.2	直交関数系	19		
	1.2.3	重みつき最小二乗近似	19		
	1.2.4	重みつき直交関数系	22		
. 1.3	列ベク	トルの表現	23		
	1.3.1	列ベクトルの最小二乗近似	23		
	1.3.2	列ベクトルの直交系	26		
第2章	直交関	数展開	31		
2.1	関数の	近似	3		
	2.1.1	直交関数系	3		
	2.1.2	最小二乗近似	33		
	2.1.3	重みつき直交関数系	37		
	2.1.4	重みつき最小二乗近似	4:		
	2.1.5	選点直交関数系	4		
	2.1.6	選点最小二乗近似	47		
2.2	計量空	間	49		

iv 🗏	次			日 次	t v
	2.2.1 内積とノルム	49	5.2	2 次形式とその標準形	165
	2.2.2 直交展開	57		5.2.1 2 次形式	
	2.2.3 直交射影	59		5.2.2 転置行列	168
	2.2.4 直交基底	60		5.2.3 直交行列	
	2.2.5 シュミットの直交化	64		5.2.4 対称行列の固有値と固有ベクトル	175
				5.2.5 対称行列の対角化とスペクトル分解	177
第3章	フーリエ解析	73		5.2.6 2 次形式の標準形	178
3.1	フーリエ級数	73		5.2.7 正値対称行列と正値 2 次形式	185
3.2	複素数の指数関数	78			
3.3	フーリエ級数の複素表示	81			193
3.4	フーリエ変換	83	6.1	主成分分析	
3.5	たたみこみ積分	92		6.1.1 主軸変換	
3.6	フィルター	95		6.1.2 主成分	
3.7	パワースペクトル	97	6.2	画像の表現	
3.8	自己相関関数	102			
3.9	サンプリング定理	106		6.2.2 画像の基底	
	1000			6.2.3 画像の固有空間	214
第4章		113	6.3	特異値分解	219
4.1	離散フーリエ変換			6.3.1 計算の効率化	219
4.2	周期関数のサンプリング定理			6.3.2 特異値分解	226
4.3	たたみこみ和定理				00.
4.4	パワースペクトル		• • • •	・ ウェーブレット解析	231
4.5	自己相関係数		7.1	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
4.6	$1$ の原始 $N$ 乗根による表現 $\dots$		7.2	<i>y</i> ==	
4.7	高速フーリエ変換	132	7.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
4.8	離散コサイン変換	139	7.4		
<del>*** عن</del>	ロナは眼底 しょうかど	1.40	7.5		
第5章		143	7.6		
5.1			7.7	一般のウェーブレット	25
	5.1.1 連立 1 次方程式と行列式		+ + 1.1	ı-	259
	5.1.2 余因子展開と逆行列		おわり	<b>YC</b>	<b>∠</b> ∪`
	5.1.3 線形結合,線形独立,ランク	<b>察</b> 5	<b>5</b> I		
	5.1.4 固有値と固有ベクトル				